

令和6年度 第3回学校運営協議会（学校関係者評価委員会）

（議事録）

日時：令和7年2月19日（水）午後2時から4時まで

会場：静岡県立下田高等学校 応接室

【参加者】委員（稲岡・土屋・高橋・山梨・中村）

校長・事務長

本校（全）（副校長・教頭）・本校（定）（教頭）・分校（副校長・教頭）

次第

I 開会

II 会長挨拶

- ・今年度最後の学校運営協議会となるため、委員の皆様は学校関係者評価をすることとなる。
- ・この結果を、次年度の経営計画に反映させていく。

III 校長挨拶

- ・入学者選抜の受付が始まったが、厳しい状況にある。賀茂地区から外の出ていく中学生が増えている現状がある。賀茂地区の子供たちが行く高校がなくなってしまうことに懸念を抱く。
- ・今年度は、私立高校が下田市内で受験を実施した。
- ・令和7年度に賀茂地区合同説明会を、下田、松崎、東伊豆で実施する。そのことで、地域の子供たちや保護者にそれぞれの高校についての理解を深めてもらうことが狙い。
- ・今回の会議は次年度の方針を決めて、承認していただき、それをベースに詳細をまとめ令和7年度1回目の会議で承認してもらう。

IV 議事 司会：会長

1 6年度取組等の報告 ＊各校5分程度

(1) 全日制

- ・進路概況についての報告があった。
- ・10月以降の取り組みについて報告を行った。
- ・理数科の取り組みを中心に報告があった。（小学生を対象としたフィールドワークを4回実施、サイエンスダイアログ、理数探究成果発表会を市民文化会館大ホールで実施 他）
- ・NY研修を次年度は実施予定でその計画をすすめている。

(2) 定時制

- ・概況報告があった。
- ・出来事や様子などをXで発信している。

- ・アットホームで良い雰囲気で学校生活を送っている。
- ・個々の頑張りや、教員のサポートで進級や卒業に向かっている。

(3) 南伊豆分校

- ・第2回学校運営協議会で分校に来てくれたことのお礼があった。
- ・11月29日に農業クラブプロジェクト発表会があった。
- ・12月1日餃子のレシピコンテストで大賞を受賞した。「分校の水耕パクチー餃子」は今後商品化される予定である。
- ・1月20日に農業クラブプロジェクト発表県大会で優秀賞、奨励賞を受賞し、生徒がよく頑張った。

(4) 質疑応答

- Q 全日制のNY研修は補助金をもらうなどして実施に向けて準備をすすめてほしい。下田市の出生が70人程度であるが、天城以南の学校の今後に対する不安がある。
- A 賀茂地区グランドデザインに基づき、下田高校が中心となってキャンパス制に移行するだろう。学校小規模に伴い多様な生徒に対応するためにICTなどの活用も積極的に行っていく。
- Q 学校の存続などに関して、一般の教員から、学校の現状に対する改善の要望などの声を上げることはできないのか。
- A 賀茂地区のグランドデザインとしては、各地域に学校を残していく方針である。
- Q 全日制に関して、教員の多忙化や外部からの要請には、外部人材を活用したサポート窓口が必要でないか。
- A 県外では、学校にコーディネーターを自治体予算で常駐させているところもある。
- Q 定時制には、学校をやめるかやめないかではなくて相談できる窓口があると気軽に話せるのではないか。
- A 教員のみでの対応は難しいが、SC、SSW、精神科医などの外部人材を活用し助言などをもらっている。
- Q 分校では農芸祭では、商品が即完売となっている。人的資源を活用できないか。
- A 農芸祭ではコロナ前の人の出が戻った。地域の方との餅つき大会では、関係が深まった。多くの人に力になってもらっている。
- Q 全日制の理数科の入学者が減っているが今後どうなるのか気になる。
- A 生徒数が減少することで、希望者そのものが減っているのが現状であるが、存続などに関しては、県の施策によるところ。
- Q 定時制が参加している合同文化祭について場所や規模を知りたい。
- A 「アクシスかつらぎ」で行われ、東部の定時制7校が合同で実施している。
- Q 分校の商品開発をしたパクチー餃子は一般販売をするか。
- A 商品化されるので購入できるようになる。
- Q 生徒の頑張りは教員の苦労があるからこそ。一方で、私立の高校受験が多くなっているのはどのような理由によるのか。
- A スポーツ関係で私立受験をする中学生がいるようである。また、広域通信制の学校や伊豆伊東を受験する中学生もいると思われる。
- Q 定時制の合同文化祭での合同バンドはどのようなものか。
- A 他校と合同でバンドを組んでいる。数年続いている。今年は、ギターでメンバーが不足したので、教員も加わり演奏をした。生徒は、このような舞台で発表をすることで自信をつけてき

ている。

Q 全日制のサイエンスダイアログ、理数探究成果発表会について、内容などをもう少し教えてほしい。

A サイエンスダイアログは、海外の研究者を招いてオールイングリッシュで専門的な講義を受けることができるイベントである。今年度は、オーストラリアの天文学を専門とする研究者の講義を理数科の生徒が中心に受けた。理数探究成果発表会は、今年度は大ホールで実施した。聴講者は生徒や保護者が中心であったが、半分以上席が埋まるくらい人が集まった。このような環境で発表ができることに生徒は喜びや達成感を得ることができた。

2 6年度学校評価について

(1) 学校関係者評価について

- ・全日制副校長より説明があり、続いて、各校からの報告があった。

(2) 6年度取組目標と自己評価等 *各校 10 分程度

ア 全日制

- ・自己評価がA、Cの項目について説明があった。
- ・安全に関する教育の徹底に関して、十分な取り組みができたためAとした。
- ・今年度新設された2年文系特進において、裁判所見学、大学見学、下田市議会の見学など実施し、生徒、保護者からの満足度が高かったためAとした。
- ・理数探究成果発表会は満足度が4.9と高くAとした。
- ・学校運営や業務の在り方について、必要があれば改善のための提案・提言しようとしている教員が86.1%でAとした。
- ・進路指導体制の理解を深めることに関して、今年度見直しを行い、進路行事の整理整頓をしている途中であるためCとした。
- ・学校の行事や魅力発信はSNSやHPを活用することができたためAとした。
- ・業務改善に関しては、反省点を含め次年度に向けて引継ぎが円滑に行われているためAとした一方で、組織的な運営や業務遂行が十分でないためCとした。

Q 理数探究が4.9という非常に高い評価だが、中学校の教員・生徒・保護者への理解が十分であるかどうか。

A 理解が十分でないのは残念である。もっとアピールを心がけていきたい。

イ 定時制

- ・重点目標について説明があった。
- ・自立心を持った生徒を育てる生徒指導の充実では、挨拶運動、年間出席率の向上、自己管理に対する意識向上、部活動加入率、生徒会活動に関する説明があった。部活動加入率や生徒会活動に関してAであった。
- ・個に応じた丁寧な進路指導に関して、就労への意識を高め、就職率100%に向けた指導や、法人会、振興会との連携についても説明があった。
- ・重点項目以外では、特別支援養育・人権教育の研修に全員が参加し、知識を深めることができたためAとした。
- ・令和6年度に新たに加えた項目で、授業の中での心理的安全性の確保に関する説明があった。また、評価もAであった。
- ・一方で、基礎学力の向上に関しては、目標に至らずCとした。次年度は新たに「すらら」の活

用を検討している。

ウ 南伊豆分校

- ・目標を満たしていると評価するAがほとんどであるため、Bについての説明があった。
- ・「基本的生活習慣を確立させ、自立心を持った生徒を育てる生徒指導の充実」では、出席率が目標値に届かずBとした。
- ・施設運用基本計画では、老朽化施設などの課題が多くあるためBとした。
- ・地域防災への参加率が47%でありBとした。
- ・個に応じた丁寧な指導では、「学びの基礎診断」の活用を検討が必要であることや、就業に関する指導では忙しく手が回らないことなどからBとした。
- ・事務執行では未達成事項があるためBとした。

Q 自己評価Aでも特によかった項目を教えてください。

A ウの農業クラブ県大会の成果やSDGsの趣旨を踏まえた、地域を重点視野に入れた農業学習の実施が特に評価したい。

3 7年度学校経営計画について

- ・今回は、各校の基本計画を説明し、質問などを受けて、承認をもらうことの説明があった。各校共通する部分は、同様に変更を加えた。

ア 全日制

- ・今回新たに加筆した部分について説明があった。(アンダーラインが変更点)
- ・「防災体制の充実と教職員・生徒の防災意識向上」設備や組織に加えて人に関する内容を加えた。
- ・「ウ(ウ)に自己肯定感の涵養」を加えた。主体的・能動的に学ぶこと評価として減点方式から加減点方式の考え方への転換を図る目的である。
- ・オ(ア)積極的な地域との連携 (イ)積極的な広報活動の推進 (ウ)ICTを活用した学校間連携の研究 これらは県の推進事業を明確にするために変更、加筆をした。
- ・「カ 学校の働き方改革の推進」に関して、明確にすることと、超過勤務時間が多いことの改善を目指す方向性を明確にするために加えた
- ・「キ 信頼される学校づくりの推進」 「(ア)コンプライアンス研修の充実と教職員の危機管理意識の向上」に関して、これまでは事務室に関する項目であったが令和6年度の反省を踏まえ、不祥事0、監査不全0を学校全体で目指すために変更を加えた。

イ 定時制

- ・「防災体制の充実と教職員・生徒の防災意識向上」設備や組織に加えて人に関する内容を加えた。
- ・「エ 積極的な地域貢献・活性化のための開かれた学校」 (ウ)ICTを活用した学校間連携の研究
- ・「(ア)コンプライアンス研修の充実と教職員の危機管理意識の向上」

ウ 南伊豆分校

- ・「防災体制の充実と教職員・生徒の防災意識向上」設備や組織に加えて人に関する内容を加えた。
- ・ウ 地域の特性と農業の多面性を活用した学習の展開 (エ)スマート農業学習の充実 (キ)ICTを活用した学校間連携の研究
- ・エ(ウ) 「マスコミ等への積極的な情報発信」に変更
- ・カ 「(ア)チーム学校と育成指標に基づいた研修の充実」
- ・ク信頼される学校づくりの推進 「(ア)コンプライアンス研修の充実と教職員の危機管理意識の向上」

委員からの意見（委員から以下のような意見があった）

- ・防災に関して、自分たちで訓練を行い地域住民などに来てもらったらどうか。
→全日制はHUGを行っている。
- ・（全）学校の働き方でワークライフバランスという言い方はわかりにくいのではないか。
- ・（分）年休取得が3日以上は目標が低くないか。
- ・外部の人が現状を知ることが大切なので、機会があれば外部に発信することを望む。
- ・超過勤務に関して、他の教員が残っているから残るという場合は教員の意識を変えることが大切ではないか。

V 事務局より

1 学校関係者評価実施用紙（会議等用）の提出について

- *全・定・分それぞれ御記入の上、まとめて所定の封筒に入れてお送りください。
2月28日（金）までに投函してください。

2 7年度の委員について

VI 閉会

- ・令和7年度の学校経営計画に関して「取り組み目標」について意見をもらうとともに、承認を得た内容の確認をさせてもらった。次年度の学校経営計画の詳細を今後作成していきたい。次年度第1回の会議で提示できるようにする。